

カガヤキ

No.56(2021.5.15 刊行)、広報委員会編集

県立図書館発行

禁複製転載©広報委員会

特集 令和2年度活動報告

(グループ名のあいうえお順)

外国語資料整理グループ

荒木 睦

(1) 活動内容・状況について

・例年同様に、外国語単行本について、書誌事項及びごく簡単な要旨を日本語でデータシートに記入した。

・16冊の書誌情報を整理し、データシートを作成した。

活動人数4名 実働人数2名。

(2) 人工数

(3) 令和3年度の活動予定

・外国語単行本について、書誌事項及びごく簡単な要旨を日本語でデータシートに記入する。

・滞っている多数のフランス語資料の整理(専門ボランティア募集が必須)、門馬教授音楽資料の整理を行う。

・英独(仏)以外の外国語資料整理をする(Google 翻訳利用)。

・コロナ禍での活動において、地下書庫

での作業を行わないことにする。

・ボランティア室で他者と一緒になることを避ける。

郷土資料整理グループ

丹 豊

(1) 活動内容・状況について

・図書館所蔵の古文書(主に江戸時代の物)の解読をした。

冊子化終了

「安南漂流記」

解読、データ化終了

「水戸より江戸駅路記」

「駅路鞭影記」「志の飛音」

本文確認中

「南遊日録」

・解読文のデータ化及び冊子化をした。

・県立図書館のHPへ公開する。

・定例打合せ会の実施について、コロナ禍のため、令和2年度の打ち合わせ会は、10月と3月の2回のみとした。各自それぞれ、持ち分の作業を続行する。

(2) 人工数

(3) 令和3年度の活動予定

・コロナウイルス感染拡大の状況により活動自粛も考えるようにする。

・図書館所蔵の古文書の解読

「志の飛音」、「水戸より江戸駅路記」、「地理書」等。

・データ化できているものをHP、デジタルライブラリーに納めるようにする。

・「桜田一件」、「桜田記」、「水戸逗留日記」等から新しく解読するものを考える。

広報グループ

桜井 淳

(1) 達成度

広報グループの作業は、国内外、いかなる場所においても、パソコンとWi-Fi利用環境があれば、社会環境や社会状況に左右されることなく、目的を達成できるため、本年度も、例年どおりの活動を推し進めることができた。

(2) 人工数

100人日

(3) 成果

今年度は、通信紙「カガヤキ」No.34, 36, 37, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56の原稿執筆と発行手続きを実施した。No.54においては、過去に断片的に記載してきた「茨城県立図書館ボランティアの特性分析」について、最近の分析結果も追加し、再考察し、体系化した。

(4) 課題

今年度は、充実した活動を実施することができ、来年度も、同様、できるだけ質の高い通信紙を多く編集したい。

広報グループでは、いまの通信紙の質を維持できる委員長と副委員長を公募しており、委員長候補者のひとりに打診したものの、受諾を得るに至っていない。そのため、今後も、継続的に検討したい

三の丸書庫グループ

黒澤英宣

(1) 活動内容・状況について

・団体等貸出用図書返却分の各分類別保管作業・整理作業を行った。

・団体等貸出用図書の処分に係るリサイクル資料登録作業を行った。

・図書の修理作業とブッカー作業を行った。

・三の丸書庫2階部分の書架の有効活用のための格納図書の大幅な移動作業を行った。

(2) 人工数

(3) 令和3年度の活動予定

・団体等貸出用図書返却分の各分類別保管作業・整理作業を行う。

・団体等貸出用図書の処分に係るリサイクル資料登録作業を行う。

・団体等貸出用図書の処分に係る図書除籍作業補助を行う。

・図書の修理作業とブッカー作業を行う。

児童サービスグループ

大内正夫

(1) 活動内容・状況について

・新型コロナウイルス感染拡大の影響により活動を休止した。

・総会(書面開催)を開催した。

(2) 人工数

(3) 令和3年度の活動予定

・定例おはなしかい 通年。

・子ども読書フェスティバル(スペシャルおはなし会) 5月。

・研修会(講師を招いての研修) 6月頃と9月頃とする。

・茨城読書フェスティバル(スペシャルおはなしかい、親子クラブ) 11月に開

催する。

- ・総会(事業報告、決算報告等)3月に開催する。

資料配架グループ

吉田善克

(1) 活動内容・状況について

- ・返却資料の配架と書架整理した(延べ人数 不明、延べ日数 不明)。

(2) 人工数

(3) 令和3年度の活動予定

- ・返却資料の配架と書架整理をする。

対面朗読グループ

人見佳子

(1) 活動内容・状況について

- ・対面朗読 16回、延べ活動人数 29名。
4-9月はコロナ禍のため活動休止、10-12月は活動、1-3月はコロナ禍のため活動休止した。
- ・訪問朗読 コロナ禍のためすべて活動休止した。

(2) 人工数

(3) 令和3年度の活動予定

- ・対面朗読を行う。

図書修理グループ

末松百合子

(1) 活動内容・状況について

- ・毎週金曜日午後1-4時まで活動し、損傷

した図書の修理を行った。

- ・図書館職員への図書修理技術を指導した。

(2) 人工数

(3) 令和3年度の活動予定

- ・毎週金曜日午後1-4時までの図書修理活動を行う。

・図書館職員への図書修理技術を指導する。

- ・ボランティア室で修理講習会を開催する。

録音図書製作グループ

立川みつよ

(1) 活動内容・状況について

- ・DAISY録音図書以下のDAISY録音図書の製作を完了した。

「祝祭と予感」恩田陸 担当3人 3時間 24分。

「日暮れ竹河岸」藤沢周平 担当14人 6時間 37分。

- ・2021年3月末提出予定図書は、「ちくま文学の森6 思いがけない話」室生犀星 担当14人 16時間、「旅のつばくろ」沢木耕太郎 担当4人 4時間 30分。

・定例勉強会 県立図書館(3回)、牛久市立中央図書館(12回)。

- ・各自県立図書館又は自宅で録音図書製作した(下読み→下調べ→原稿作成→練習→録音→校正(1-3回)→編集→CD(デジタル図書)作成→提出)。

(2) 人工数

(3) 令和3年度の活動予定

- ・ DAISY 録音図書製作は、「もののけ」宮部みゆき「カレーライス」重松清、「昨夜のカレー、明日のパン」木皿泉。
- ・ 定例会・勉強会 県立図書館 各月 第 2 火曜日 牛久市立中央図書館 各月第 1 と第 3 火曜日。
- ・ いばらき読書フェスティバル協力(録音図書製作体験コーナー)。

県立図書館ボランティア業務に携わって

県立図書館普及課
石井敬之

ボランティア活動休止の経緯

私は県立図書館に勤めて 2 約年になる。令和 2 年度は、ボランティア事務局の担当職員としてボランティア業務に携わったが、異例の年度となりました。

年度当初から、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ボランティア活動は、早くも暗礁に乗り上げてしまい、活動ができない状況になった。県立図書館も、ボランティア活動について慎重な立場を採らざるをえなかった。ボランティア各位の安全を考えると、もし、感染者が発生した場合、重大な事態に陥ることも想定されたためである。

当初は、感染症対策のアルコール消毒液やマスクも不足しており、十分な対応が取れない状態であったことも影響していた。この状況で、ボランティア活動を休止せざるをえなかった。

ボランティア活動再開

県立図書館のボランティア活動の趣旨は、HP のボランティア募集要項に明記してあるとおり、図書館利用者にとって充実したサービスを提供し、ボランティア各位の生きがいにつながる場を提供すると言うものである。

この趣旨に基づき、ボランティア事務局として、できる範囲で活動協力を行ってきた。しかし、新型コロナウイルスの影響により、図書館内での感染対策を第一優先したことや、活動を自粛すべきとのボランティア各位の判断などで、活動がないまま 1 年間を過ごしたボランティアグループもあり、多くのボランティアグループの活動の場は、失われた。

ボランティア各位は、活動を再開したい気持ちがあるのにできず、もどかしい思いをされていたかと思う。何とか、活動できる場を提供できないか、図書館内でも検討を重ね、自宅で活動できるボランティアグループや、三密にならない形で感染対策を行えば可能な活動に限り、ボランティア各位の理解と協力を頂き、7 月頃から少しずつ、ボランティア活動を再開する運びとなった。

私も、手探りの再開となり、ボランティア各位の不安を解消するような対策を講じた。結果として、活動を再開したボランティアグループの各位もソーシャルディスタンスをとりながら活動する姿を見て、気持ちが救われた。

ボランティア業務を振り返って

この1年間は、新型コロナウイルスに振り回され、通常の業務を年間とおして実現できず、苦しい思いをした。この未曾有の事態を経験したことで、緊急事態時に即座に対応することの難しさを痛感した。今後は、今年度の経験を無駄にしないように、ボランティア活動を、どのように継続していくべきか、事務局として自分なりに試行錯誤しながら、運営に努力したい。

編集後記

広報グループは、通信紙の質的向上を図るため、通信紙 No.31において、つぎのような「投稿規定」を設けました。しかし、まことに残念なことです。投稿は、これまでに、一件も、ありませんでした。そのため、すべて、依頼原稿でした。

【投稿規定】

- 1) 投稿者は、原則として、茨城県立図書館ボランティアであること。
- 2) 原稿は、Word標準書式(42文字36行)でまとめ、Eメール添付とすること。ただし、短い記事の場合には、そのままEメールのテキスト文としても良い。
- 3) 原稿締切日を設けない「随時受付方式」とする。
- 4) 年度報告の記載項目は、①年度目標、②人工数(かかわった人数かける日数)、③作業内容、④作業成果、⑤次年度課題の順に、0.5ページにまとめること。
- 5) 各グループの作業報告や成果報告については、通信紙No.27の「郷土資料整理

グループ」の例をめやすに、1-2ページにまとめること。

6) 「図書館」や「ボランティア」にかかわる記事については、通信紙No.27とNo.30の例をめやすに、1-2ページにまとめること。

7) その他、ボランティア相互の意志疎通のための記事については、0.5ページにまとめること。

原稿の採否の基準(オリジナリティ、文章表現、論理展開)は、世の中の一般則に則り、そのままかあるいは全体の30%以内の修正で対応できる場合には、「掲載可」と判断、それ以上の修正が必要な場合には、その旨を記した内容を投稿者に伝え、指摘事項の修正がなされれば、「掲載可」となりますが、指摘事項に対する的確な対応がない場合には、「掲載不可」となります。

作家が1冊の作品にするには、400字詰め原稿用紙に、約250枚も執筆しますが(いまは、Word標準書式で、約120ページ)、印刷する前、編集者は、時間をかけ、丁寧に、誤字脱字や表現の不完全さなど、様々な修正を施し、原稿用紙1枚当たり、少なくとも、20箇所(1冊で数千箇所)くらいの修正が入るのが普通です(世の中の書籍には編集者による有名作家の原稿の編集の写真掲載)。プロが書いても、そのくらいですから、素人が書けば、もっと多くなり、30%以内の修正で済めば、良い方です。

結論として言えることは、誰でも、多く修正されると言うことを認識した上で、正直に、素直に、対応したら良いと思いま

す。

広報グループは、いつも、企画や原稿依頼に頭を悩ませています。たとえ、原稿依頼しても、期待どおりの結果にならず、やむをえず、自ら執筆しなければならないことが多く、もう少し、分担化が図れないものかと無念に感じています。

私は、これまでの人生において、優秀な人(良い指導者 たとえば、元直属上司の原研東海副所長、その後、原研理事、その後、原子力安全委員会委員長となった佐藤一男氏)とそうでない人に出遭ったことがあります。両者には、対応において、どのような差異があるのか、記憶を基に、記してみます。

優秀な人は、周囲にそれとなく気を配り、全体の進捗状況を把握しつつ、うまくできていない人に対し、期限直前ではなく、時間に余裕を持って、それとなく、解決のために、ちょっとした助言(たとえば、「その件については何々の文献が参考になる」など)をしますが、そうでない人は、状況を把握していたにもかかわらず、期限後、予定どおりに終わらない人に対し、人前で、批判し、否定的な位置づけをしてしまいます。ちょっとした一言で、明暗が分かります。

誰しも、分からないことがあった場合、自力解決を図るか、周囲の人に対し、参考となる文献を聞くとか、解決のための考え方などを聞きますが、答まで聞くようなことは、すべきではない。指導者は、たとえば、答を求められても、そうせず、考え方に留めるべきです。

私は、仕事に無関係な人から、研究のた

めに作成中のデータベースの利用を求められたことがあります(他人の成果の盗用行為で良くない)、また、他の人から、特定の問題に対する計算コードの入力を求められたことがありましたが(他人に依存すべきことではない)、すべて、断りました。人を正しく導くため、人を育てるためには、答えを教えるのではなく、解決のための考え方を教えるに留めるべきです。

いささか、前置きが長くなりましたが、以上の考え方が、「アフリカ貧困」の根源的原因の解決策につながるのです。

先進国は、アフリカ支援として、多額の資金や多くの物資を送りますが、そのような安易なことは、状況をより悪化させてしまうため、すべきではありません。アフリカ支援に携わった国連や NGO や NPO の人達が口をそろえて言うことは、カネやモノではなく、それらを生み出す「システム」の作り方を教えなければ、悪循環がくり返されると言うことです。

多額の資金や多くの物資を送るのではなく、井戸の掘り方、上下水道の作り方、土地の耕し方、野菜や果物の栽培法、コメや麦の作り方、それらを販売し、金銭を手に入れる方法、地域の間人関係や住居環境や労働環境の改善の仕方などが、求められているのです。物(ハード)ではなく、方法(ソフト)を教えるのです。

最も重要なことは問題を解決できる人材を育てることです。

桜井 淳